

第4回 循環共生型の地域づくりに向けた検討会 資料

前回の議論の整理と全体の見取り図

2015年1月23日

1. 前回の主なご意見

資料1

(1) 目指すべき地域像の具体化→資料3

都市別規模別に目指すべき地域像を具体化し、地域で共有して地域づくりを行っていくことが望ましい。

→「目指すべき地域像」の骨太の考え方を示し、地域で作成することを示し、都市規模別については次年度以降の課題とする。

(2) 低炭素政策を地域経済循環につなげるための留意点→資料4

低炭素地域になれば自動的に地域経済が循環を始めるということではなく、循環させるための能動的な政策が必要である。

→低炭素政策を経済循環の拡大や健康、コミュニティの改善、ストック再構築につなげるための留意点や阻害要因を整理する。

(3) 低炭素政策の施策パッケージの方向性の具体化→資料4、資料5

具体的な政策に対応し、どうすれば経済循環が生まれるかを提示した方がよいのではないかな。

事例等も参考にしながら具体的にどうやって地域政策に落とし込んでいくかを考えていく必要がある。

(4) 目標、指標の検討→資料3、参考資料3

様々な要素を踏まえた目標を可視化してまちづくりの指針にすべきである。

経済のみでは短期的な指標となるため、長期のCO2削減を目標として地域循環等に取り組む方向性が、社会や地域の方向性として間違っていないことを確認しながら進めていくのがよいのではないかな。

→具体的な指標の検討は次年度以降の課題とする。

(5) その他

今の経済は短期的な利得にとらわれがちで、長期的な意思決定ができていないために様々な資源が失われる可能性がある。

経済と環境についての記載に加え、社会に関するキーワード(「参加」「協働」等)等が必要である。

→中間とりまとめで言及する。

2. 自治体委員意見交換会における主なご意見

資料1

(1) 検討会の議論全体について

① 経済、社会面の効果を前面に出して説明すると理解されやすい

環境面から説明するよりも、経済面、社会面への取り組みが環境にも良いと説明する方が市民に理解されやすい。

② 自治体間連携について

お互いの資源を活用した循環共生圏を実現するために、具体的テーマを設定すると連携しやすい。

③ 具体的な地域像とメリットの提示が必要

経済面、環境面、社会面が相互に関連し、相乗効果が起きることで、地域が統合的に向上することを明示したほうが良い。

④ 再生可能エネルギー導入による外貨獲得

再生可能エネルギーの導入はエネルギーの地産地消だけでなく、エネルギー移出による外貨獲得につながることをメッセージとして強く打ち出して欲しい。

(2) 地域の課題

① 地域づくりを担うプレイヤーの不足

環境により取組の担い手・リーダーとなる市民の発掘や、既存の取組の後継者育成がすすんでいない。

② 雇用のミスマッチ

地域では雇用のミスマッチが起こっている。地域エネルギー会社等による良質な雇用創出が考えられないか。

③ 人口減少とスプロール化

中心市街地では住民の高齢化によって空家が増加しており、治安の面で問題となっている。

3. 全体の見取り図

資料1

